

令和7年度 第2回庄原市総合教育会議 議事録

日 時：令和7年12月18日（木） 10時00分開会

場 所：庄原市役所本庁5階 第2委員会室

出席者：【構成員】

八谷恭介 市長 牧原明人 教育長 横山和明 教育委員
立花有佐 教育委員 捻金宏昭 教育委員 渡部要 教育委員

【事務局】

足羽幸宏 企画振興部長 荘川隆則 教育部長
田部伸宏 企画振興部企画課長 毛利久子 教育部教育総務課長
高淵直哉 教育部教育指導課長 八谷美幸 教育部生涯学習課長
安藤秀明 企画振興部企画課企画調整係長
天野雄作 教育部教育総務課総務係長
ほか担当職員（1名）

【議事進行】

八谷恭介 市長

欠席者：なし

傍聴人：5名

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 議題

（1）第3期庄原市長期総合計画及び第3期教育振興基本計画の策定状況について

配布資料に基づき、第3期庄原市長期総合計画（以下「第3期長期総合計画」という。）及び第3期庄原市教育振興基本計画（以下「第3期教育計画」という。）の策定状況を報告した。

第3期長期総合計画については、計画（案）における基本事項、基本構想、基本計画の施策の体系について説明した。

第3期教育計画については、計画（案）の基本理念、基本目標、基本施策の素案について説明するとともに、第3期長期総合計画の施策（施策領域）と第3期教育計画の施策がどのように紐づいているか、関連する項目ごとに示した。

最後に、今後の策定までのスケジュールについて共有した。

●質疑応答

（市長）

ただ今の説明について、質疑やご意見等をお願いしたい。

（渡部委員）

第3期長計総合計画については、市民にどのように共有をしていくのか。

(事務局)

市民には、第3期長期総合計画の概要版等で広く共有していきたいと考えている。

第3期長期総合計画の策定にあたり、中学生や高校生にはアンケートを実施、社会人、高校生、大学生や若手の事業者の方にはワークショップで様々な意見をもらっている。策定後には、学校などでは総合的な学習の時間の中で第3期長期総合計画の概要版等を活用して市の総合計画を知ってもらう機会がもてればよいと考えている。

また、市の出前トークのメニューになっているので、依頼があれば説明に伺うといったことも可能である。

市全体で多様な媒体を活用し、こちらから説明に出向くなどして、周知を進めていく予定である。

(横山委員)

施策ごとに担当する旗振り役のような課が割り振りされるのか。

(事務局)

目的に応じて関係機関が協力しながら進めていくため、施策ごとに担当課を決めるようなことはしない。その都度連携しながら進める。

(立花委員)

計画内の文章に横文字が多いので配慮してもらえると幸いである。

また第3期長期総合計画の中に安心安全という用語が頻繁に出てくるが、近年の気候変動による厳しい夏冬の状況などの影響についても配慮されているのか。

(事務局)

横文字については注釈をつけるなど、できるだけわかりやすくする。

気候変動に関する内容は基本事項に記述している。今後は全庁的に計画を共有して対策を考えていくことになる。

(捻金委員)

第3期長期総合計画の柱となっている「安心な暮らしの充実」という表現は簡潔で分かりやすいと思った。

人口減少への対応、移住定住と関係人口に関する記述について、近年関係人口の重要性が強調されている。

今時点での関係人口数が分かれば教えていただきたい。

(事務局)

現在、国が「ふるさと住民登録制度」という関係人口創出のための制度を作っているが、本市においては、関係人口創出のため庄原ファンクラブや里山留学などの取組がある。

庄原ファンクラブについては、現在会員が約3,500人程度と順調に増えている。

地方創生 2.0 の中では、人口の増加は困難であり、人口が減っていく状況にあっても豊かな社会を作ることが重要であるという考えが示されている。本市においても多面的に地域に関わってもらふ取組を発展・向上させていきたい。

(教育長)

第 3 期長期総合計画の審議会では、本計画についてどのような意見が出ているか。

(事務局)

審議会では、市民が手に取りやすい計画にすることを目指して検討した結果が表れていると評価していただいている。策定後には計画を多くの市民に説明して理解してもらうために計画を共有する場を積極的に持ってほしいという意見等が出ている。

4. 意見交換

(市長)

様々なご意見をいただき、ありがとうございました。

続いて、4 のその他意見交換会へ移る。

皆様から、何か意見があればお願いしたい。

(捻金委員)

第 3 期長期総合計画に記述のあったデジタルや AI の活用について、具体的にどのような場面での活用を考えられているのか。

(事務局)

今年の夏ごろから行政専用の AI を導入し、内部資料の作成から法律に関する確認など幅広く活用している。職員の知見も必要であるが、今後は、市民サービスにも AI が役立てられるように検討を進めている。

(捻金委員)

AI などを学校現場に導入する予定はあるのか。

他自治体の学校でプール監視の AI を導入したというのを見た。このような人を見守るような AI 導入ができるのであればよいと考える。

(教育長)

デジタルを活用した教育が盛んである愛知県四日市市や他県内自治体も視察したことがある。AI の活用は便利な活用方法がある反面、必ずしも良いことばかりではない。

AI の利用による思考力の低下の懸念もあるため、研究をしていかなければならない。

例えば、総合的な学習の時間で個別学習をするとき、パソコンで調べものをする際にしっかり考えず、すぐ答えを求めると AI は答えを瞬時に出してしまう。自分で考えることをせず、すぐに頼っている。もっと良い考えが出るかもしれないのに、AI の回答が出て

きてそのみを答えとしており考えることができていない。

AI を使っていくにあたっては、どういうときに活用し、その回答も吟味する必要があり、児童生徒の思考力に関しては今後の課題であると考えている。

(事務局)

現在学校では、デジタル端末を使って様々な学習をすることで情報教育を進めている。調べもの等に関しても本当の情報ばかりではないため情報の取捨選択の力も育んでいく必要がある。

1つの手法として端末を利用した教育が進められているが、デジタルを効果的に活用した学びが必要であり、大切であると考えている。

例えば、体育の授業のマット運動などでは、端末等を利用して動画で自分の動きを確認する等効率的な学びが考えられる。また、国語等で作者の考えを読み解くといった授業では、AI 等による学習ではなく子ども自身に心情等をじっくり考える学びが大事である。

情報社会が進んでいく中で、子ども自身にもどういった学びが大事なのかを見極めていく力を育むことが重要である。

(立花委員)

各学校を回っているが、学校図書室の蔵書数の基準を満たしていない学校が半数の10校ある。

蔵書数を満たしていない学校図書室があることを知っておいてほしい。

(横山委員)

第3期長期総合計画の柱である「市民の期待に応え、将来を担う人的資源の育成」の施策にも文化財等に関する記述があるが、本市においては文化財などの保存活用をしていくために学芸員等の人材が適切に整備される必要がある。

今後第3期教育計画の中で施策を進めていくうえで、人材の確保を進めていかないといけないと思うが、どのように考えているか。

(教育長)

文化財のみならず芸術文化については活動そのものやその良さが目に見えないところがある。

「読書のまち」という面で言うと、先ほど出された本の蔵書のことや読書習慣はもっと取り組む必要がある。また「音楽が聞こえるまち」をつくりたいという思いがある。このことは、予算はかからないと考えるのでもっと輪を広げていきたい。

子どもも芸術や文化的な活動でまちへの愛着が湧いてくる面があるので、今後も文化活動を行っている人たちの協力を得て、力を入れていく。

また、文化芸術活動のイベント等に市長にはほとんど出席していただいている。これからもいろいろ企画・提案をしていきますので、よろしくお願いいたします。

(市長)

文化、芸術的なものは教育分野のみならず生きがいつくりの分野や観光分野ともつながっているし、今の我々の生活そのものの充実にもつながってくることだと考える。

文化芸術等、1つ1つ盛り上げて取り組んでいけたらと思う。

(渡部委員)

ワークショップなどに参加した層をはじめ、市民には第3期長期総合計画に関する情報を発信していくと説明を受けたが、子どもたちが想像した未来になっていくようにしていてもらいたい。

また、子どもたちが地域で活躍できるようなまちづくりを期待している。

(捻金委員)

第3期長期総合計画に記載している高校や大学との連携支援とはどのような連携をしていく予定なのか。また中学校等の義務教育とは連携をしていかないのか。

(事務局)

高校や大学のみならず、幼児教育から大学までを幅広く連携していく。高校と大学との連携では、授業の共同開催やイベントなどの実施ができればよいと考えている。

高校や大学のみならず市民の学ぶ場について考えていく必要がある。

(教育長)

小中学校時代の良い体験が、子どもたちの帰郷意識や地域愛着を育むと考える。特に同世代の仲間たちと一緒にやる取組が大事である。失敗や成功体験もする中で多くの学びや友達思い、ふるさと思いの気持ちも育まれる。これまで行ってきた合唱コンクールや教育フォーラムを通じて同世代の子どもたちが心に残ることを共有し、ふるさとに帰ったとき、また生活するとき頼りになる同世代との結びつきを大切にする取組をこれからも継続していく。

もう1つ大事なことは、大人の姿勢や親と子どもとの関係性である。ふるさと庄原の良さを自覚するには、大人の仕事への取り組み方や生き方、考え方などを背中で見せることを忘れてはいけない。PTAなどの研修会では親世代に一生懸命、誠実に生きる姿を示すことが大切であることを言っている。

(市長)

柱の中の「市民の期待に応え、将来を担う人的資源の育成」の人的資源には子どもたちだけではなく大人も入っている。

それぞれ目標をもってしっかり前進していければと思っているので、是非ともよろしくお願いしたい。

(教育長)

子どもたちが通う学校について、これから教員を目指す者に「学校は大変だ」ということばかり言うことが教員不足の一員となっているという。もっと子どもが躍動し、成長する姿を見てほしい。

明るい未来を子どもたちに語ってほしい。子どもも大人も双方にやりがいの持てる環境づくりに努めていきたい。

5. 閉 会 11 時 25 分